

第10回日韓青年労働者交流に参加

2013年11月9日から12日にかけて、JR総連青年協議会が主催する第10回日韓青年労働者交流に参加をしました。今回は、各地本青年部から1名ずつと本部青年部三役、本部から寺西政策部長の9名で参加をしてきました。

参加をするにあたり、貨物労組青年部は11月8日に事前学習会を行いました。

JR総連黒田政治部長と共に日本と韓国の社会情勢や私たちが現在置かれている状況、韓国の労働運動の歴史などを学び、日韓青年労働者交流に参加するための意思統一を図りました。その後、懇親会を行い貨物労組参加者で交流を深め、初対面にも関わらず、すぐに打ち解け合い大いに盛り上がりました。

9日は韓国に到着後、参加者全体で結団式が行われ、黒田団長からは、「①人間らしく生きる、労働者の権利を守ろうとしたチョン・テイルの精神を学ぶ。②反グローバリズムに立って己が何をすべきか明確にする。③過去、日本は朝鮮半島で何をしてきたのか真実を学ぶ。」の3つの課題について提起がありました。また、「日本や韓国、各単組の情勢を共有し、最後に、韓国鉄道労働者の魂を我がものにしてほしい。」と挨拶されました。



今年の日韓青年労働者交流は3泊4日の行程で、初日（9日）は労働者大会前夜祭に参加し、2日目（10日）に西大門刑務所跡、労働者大会、3日目（11日）に戦争と女性の人権博物館、ハルモニとの意見交換会、韓国鉄道労働者との意見交換交流会を行いました。労働者大会には、韓国の労働者総勢5万人が結集をしました。しかし、その対応として韓国の機動隊が1万7千人動員されました。

ハルモニとの意見交換会では、「戦時中、日本軍が朝鮮半島を侵略・占領し、その先々で若い女性を性奴隷にした事を日本政府は民間が行ったことだとして認めていない。その姿勢に対して当時の真実を話し、解決に向けて行かなければならないと、私たちは立ち上がった。しかし、日本政府は今、戦争への道に突き進もうとしている。私たちと同じ被害者を出さないためにも、参加した皆さんが日本に帰り真実を伝え拡げる事が、解決に結びつく」と話がされました。



参加者からは日韓青年労働者交流を通じて、韓国の地から日本では語られない真実を学び、権力の都合の悪い事が、隠されていることに気付いたと感想が話されました。